

科目名	コーポレートファイナンスⅡ Corporate Finance Ⅱ		選択	2単位
学期・曜日・時限	春・木・6限		-	-
担当教員名	岩坂 健志 唐木 宏一	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施） ※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>「コーポレートファイナンスⅠ」が、受講者として在学生すべてを想定するMBA学生のための「基礎科目としてのコーポレートファイナンス」であるのに対して、本科目ではファイナンスにある程度以上の関心を持ち、それらを学修すべき能力をもつ（と自ら任じる）受講者を想定する。受講の目的（活用か研究か）は問わない。取り扱うべき題材も、応用編的なものを主体とする。企業価値評価の実践やPEファンドのケース分析などいくつかのテーマについて踏み込んだ学修（インタラクティブなものを含む）をおこなうものとする。とりあげる題材については、下記講義計画で予定する以外のものについても、受講生からの提案要望があれば応じる可能性がある。</p> <p><到達目標></p> <p>本講義は基礎科目としての「コーポレートファイナンスⅠ」とは異なり、実際のビジネスの場での「ファイナンス」知識の積極的な応・活用を志す受講者が履修することを想定する。主要な用語の概念定義とそれらの「道具」としての使い方についての的確な理解と習得にとどまらず、受講者それぞれが自分の手を動かす経験を通じて、「道具」を使えることの実感を持ち、さらに実務の場において講義のノート等を参照し「ファイナンス」にかかる課題に取り組める力（ちから）をもつことを、到達目標とする。この目的の達成は、講義を一方向的に聴くことのみでは困難である。前提となる予習復習に加えて、受講者諸君の質問や意見の開陳など積極的な参加が求められる。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>いくつかのテーマにおいて、受講者個人作業やグループディスカッションを実施し、結果の発表と質疑応答を通じて、より深い学修を図る。</p> <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>必要に応じて実施する可能性がある。</p> <p><講義計画></p> <p>1回目：イントロダクション/実務の場で必要が想定される「ファイナンス」とは（岩坂・唐木共同） ・要点：「ファイナンス」基本の振り返りと、講義トピックの使用が想定される局面や学ぶ意味の確認</p> <p>2回目：企業のバリュエーション1（岩坂） ・要点：企業価値（有形価値・無形価値）の形成の確認</p> <p>3回目：企業のバリュエーション2（岩坂） ・要点：上場企業の株価推定（財務諸表分析、シナリオ分析等）</p> <p>4回目：企業のバリュエーション3（岩坂） ・要点：未上場企業の株価推定（インカムアプローチ、マーケットアプローチ等）</p> <p>5回目：企業のバリュエーション4（岩坂） ・要点：上場企業における具体的株価評価とライバルの比較</p>				

6 回目：証券市場詳論 1（岩坂）

・要点：証券市場とポートフォリオ理論の基礎（証券市場の概要、意思決定プロセス等）

7 回目：証券市場詳論 2（岩坂）

・要点：株式ポートフォリオの作成（1）（シナリオ分析とセクター選択）

8 回目：証券市場詳論 3（岩坂）

・要点：株式ポートフォリオの作成（2）（定性・定量分析による銘柄選択）

9 回目：PE ファンドの実態と活用 1（唐木）

・要点：PE ファンドの誕生の経緯、構造と期待される機能

10 回目：PE ファンドの実態と活用 2（唐木）

・要点：PE ファンドの実例検討、内包する課題と新たな動き（ディスカッション）

11 回目：PE ファンドの実態と活用 3（唐木）

・要点：受講者による事例検討とその発表（グループ or 個人）

12 回目：PE ファンドの実態と活用 4（唐木）

・要点：受講者による事例検討とその発表（グループ or 個人）

13 回目：銀行取引詳論 1（唐木）

・要点：銀行業務の基本（構造と機能、利用者にもたらす意味）、銀行の事業活動の動機について

14 回目：銀行取引詳論 2（唐木）

・要点：融資取引詳論 背景にあるロジックと実運用における乖離等について（ディスカッション）

15 回目：銀行取引詳論 3 および全体総括（唐木）

・要点：保証の考え方 8 回目のポートフォリオの成果確認 全体のレビューと質疑応答・意見交換

<講義の進め方>

配布資料（PPT や PDF）を足がかりとして実務への応用や、関連する今日的な話題について講義をおこなうほか、講義時間中にも受講生諸君自身で「手を動かす」時間を確保する。人数構成等の面で可能であれば、チームを構築しチームでの討議と課題実習、そのクラスへの報告を織り交ぜる。時間中の学生からの質問、意見はいつでも受け付ける（疑問はあとで質問しようと思わず、その場で尋ねること）。

<事前事後学修内容>

詳しくは講義にて指示するが、事前に Teams 等にアップし配布する講義資料（講師作成の PPT や、書籍論文等の抜粋 PDF 等）を必ず 1 回は読んだうえで（精読までは求めない）、当日のテーマについて事前に疑問点等を明確にしておくこと。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をする。

<教科書及び教材>

『金融機能による社会的課題の解決』岩坂、唐木著、白桃書房、2020 年
ほか、必要に応じ講義の Teams 等を通じ配布する。

<参考書>

『日本のエクイティファイナンス』鈴木健嗣、中央経済社、2017 年
『プライベート・エクイティ投資の実践』幸田博人、中央経済社、2020 年
『ファンダメンタル投資の教科書』足立武志、ダイヤモンド社、2019 年

『ウォール街のランダムウォーカー』 パートン・マルキール、日本経済新聞出版社、2023年（新版）

ほか、必要に応じ指示ないし配布する。

<成績評価方法>

主としてグループ課題への取り組み姿勢や成果、講義への参加（討議への貢献度等）の度合いを評価する。レポートを2回程度課す可能性がある。欠席6回以上は成績評価しない。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

全体については講義のTeams等にて逐次実施予定。

<履修条件>

「コーポレートファイナンスⅠ」が既習であることが望ましい。

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

木曜5限。まずe-mailで連絡すること。左記指定時間以外でも時間を確保することがある。

<その他>

特に無し